

学研春秋

第70号

令和5年(2023年)
8月発行

題字: 高橋秀鋭
(号 洋風)



— 77回大会参加者氏名 — (会員58名 敬称略)

<来賓>

(株) 学研ホールディングス専務取締役	福住 一彦
〃 取締役	山本 教雄
〃 執行役員	澤田 隆司
〃 役員室長	西郷 直子

<会員>

秋谷俊之	安部隆	阿部利隆	荒井久男	飯田弘
井田昌夫	井上義弘	伊與部史朗	岩崎文俊	
岩野一夫	内田安茂	遠藤久光	大久保匡信	
岡俊彦	忍足恵一	川上親孝	河崎三千夫	
川西義規	川村正孝	紀本智三郎	黒崎輝雄	
小西貞人	斉藤啓	塩園彦	塩沢和雄	
篠崎作三郎	白石明	白石一清	菅原徳太郎	
鈴木正一	鈴木昭三	関口一郎	田中勲	
田中茂樹	谷口裕治	谷口義博	反頭義光	
津田一男	堤満弘	中居栄太郎	仲田雄一	
永松久幸	西島一	原田耕一	日向邦夫	
平岡雅雄	平田伸一郎	福山通彦	藤井健	
藤原郁久	本多由利子	松下勲光	真当哲博	
丸山尊義	森一郎	守田志郎	安威誠	綿引英子

第77回春季大会は、令和五年五月二十日(土)に、アートホテル日暮里ラングウッドの新会場にて、会員五十八名が参加して開催されました。

学研ホールディングスからは、福住専務取締役はじめ四名の方々に臨席していただきました。

第一部は、先ずこの半年の間に逝去された七名の方々のご冥福をお祈りして黙祷をささげました。続いて鈴木春秋会会長の挨拶及び谷口会計幹事から会計報告があり、承認されました。ついで、福住専務取締役・山本取締役からご挨拶をいただきました。そのあと、新入会員と大会初参加の四名の方々に自己紹介をしていただきました。次に、別記の方々の米寿、傘寿、古希のお祝いをいたしました。その後、澤田執行役員、西郷役員室長からご挨拶をいただきました。

第二部の懇親会は、堤満弘さんの乾杯の発声でスタート。二段重ねの豪華弁当を食べながら、楽しい歓談のときを過ごしました。その後、ビンゴゲーム、抽選会と賑やかに進行し、「学研社歌」「学研音頭」「青い山脈」CDを聞きながら歌ったあと、関口一郎さんの閉会の挨拶で終了しました。

第77回春季大会を 新会場で開催

第77回春季大会は、令和五年五月二十日(土)に、アートホテル日暮里ラングウッドの新会場にて、会員五十八名が参加して開催されました。



第77回大会開催にあたって

学研春秋会会長 鈴木 昭三



本日は、学研春秋会第77回春季大会にご出席いただき、まことにありがとうございます。コロナの影響があまりなくなつたなかでの開催で、58名の会員にお集まりいただきました。

学研HDからは、福住専務取締役、山本取締役、澤田執行役員、西郷役員室長にご参加いただきました。そして、ただいまは過分なお祝い金を頂戴いたしました。

さらに出席会員全員への賞品と、ビンゴゲームの賞品をご提供いただいています。心から御礼申し上げます。

令和4年度は、コロナ禍という難しい状況の中でしたが、春秋の大会とも中野サンプラザのご協力をえて開催することができ、それぞれ50名を超える会員の参加がありました。

春には、米寿・傘寿・古希を迎える方々を顕彰し、記念品を贈りました。秋には落語家の桂やまと師匠の話がうかがうなど、楽しく過ごすことができました。『学研春秋』は68号、69号とも、

原稿や作品、近況を述べた文などをたくさんいただきました。ご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。

令和5年度は、本日の大会につづいて、10月29日(日)の第78回秋季大会(学研ビル)で、再び皆さんとお会いしたいと思います。

これまで毎月お送りいただいていた『学研ライフ』は、今後はデジタル配信になることになりました。ところが春秋会会員全員が対応することは難しいということで、本社広報室にお願いをして、毎月印刷物として製作していただくことになりました。ただし発送のほうは毎月ではなく2か月に1回、奇数月に2号分を合わせて送っていたということですので、その際に「ホットライン」も同封させていただきます。

いま課題となっているのが会員数の減少傾向をいかに食い止めるかということです。昨年4月の段階で会員数は303名でした。この1年でお亡くなりになられた方、また病氣・高齢などを理由に退会された方がかなりおられます。新たに入会された方もおられますが、今年4月時点での会員数は294名です。皆様におかれても、学研社員

長寿おめでとうございます！

今回のお祝いの方は、次の方々です。(誕生日順、敬称略)

米寿(88歳)お祝いの会員(12名)

堀真彦 加藤勇 鈴木操
白石明 遠藤久光 原田稔
関口一郎 原正 東武
藤井健 紀本智三郎 加藤末人
●傘寿(80歳)お祝いの会員(15名)
中山嘉彦 荒井善次 津田一男
松林光義 大村晋 小島南海雄
筒井昭正 尾園政喜 井上義弘
國光義彦 渡辺保憲 守田志郎
脇俊彦 中野恒久 井田昌夫
●古希(70歳)お祝いの会員(4名)
鈴木正一 中居栄太郎
伊興部史朗 藤原郁久

米寿



(左より) 藤井・白石・関口・遠藤・紀本)

傘寿



(左より) 津田・井上・守田・井田)

古希



(左より) 鈴木・中居・伊興部・藤原)

会員からのメッセージ

大会出欠の返信はがきから転載しました。スペースの関係ですべては掲載できませんでした。お便りも一部省略しました。

(青木隆明) 徐々に元の生活に

戻りつつあります。混声・男声のコーラス活動も再開できて忙しい日々となつてきて、嬉しい限りです。

(青柳努) 体調不良です。

(秋合俊之) 学習研究社時代は、仙台支社、埼玉支社、経営企画室、学研教室事業部。分社化後は、学研エデュケーション、学研塾ホールディングス。39年

8か月の学研人生を、2022年11月に卒業しました。今は古岡奨学会に籍を置いています。

(荒井久男) なんとか元気で人

並みな生活は、できております。大会で顔なじみのメンバーに会うのが楽しみです。

(安斎俊三) 体調を崩し、病院

との関係が深くなって困っています。リハビリを兼ねて、子ども達の安全通学の学援隊として、登下校の見廻り活動を行っています。

(安藤昭寿) 少々の家庭菜園を

行ったり、週一のテニスとグラウンドゴルフを楽しみながら過ごしております。

(碓秀行) 今年度から入会させていただきますました。関係会社の社外取締役を勤めながら、軽い運動を心掛け、体力維持に努めています。

(碓石眞彦) 相変わらず似顔絵、イラストを描いています。

す。この人は、次の大統領選に出るらしい。



(井田昌夫) 大谷翔平、藤井聡太。天才の大活躍、楽しみです。

(伊藤正宏) 古岡奨学会にお世話になっております。今年は雪解けも早いと聞き、せっせと溪流釣りのプランを練っております。

(井上義弘) 多摩川の「風の道」を妻と二人で3時間ほどウォーキングすることが日課になっています。

(伊與部史朗) 家族全員、無事に過ごしております。

(岩野一夫) 今音訳している「東京骨灰紀行」の中に出てくる谷中周辺を散策してきます。

(上野雅道) 点が取れない楽天イーグルスにガッカリ、ホームで勝ちきれないベガルタ仙台にイライラ、そして自分のゴルフでひどくガックシする生活を、仙台で送っています。

(宇野修平) 最近ほとんど外出もなく、週一回の近所の公園でのグランドゴルフくらいになってしまいました。

(遠藤久光) 「米寿とはお米を沢山食べること」ではないですが、気が長く、また気が短くなっていく自分を自覚し、なんだか気恥ずかしい思いの今日此の頃です。

(遠藤博) 85才中に変えたこと。

週3日くらいの晩酌をアサヒビールから寶焼酎ハイボールドライ(プリン体ゼロ・糖質ゼロ・甘味料ゼロ)に変えたこと。運転免許証を返納したこと。ゴルフ用具一式を粗大ゴミに出したこと。元気に楽しく終活を進めています。

(遠藤暢喜) 85才になり健康にゆらぎが見られ、健康維持により気をつけて日々を過ごしております。

(笈沼暁子) 今は元気に暮らしています。コーラスを続けていて楽しい時間があり、元氣のものとしようか。

(大井恒晴) 座骨神経痛を発症。現在週一でリハビリ中です。頭のほうはまだ大丈夫で、絵も字も…かいています。

(大内章) コロナ禍もほぼ解禁状態に。いざ外に思う反面「いや待てよ」と自粛の声も。加齢のボケ防止に「聞く・話す・書く」ことを目指す日常をと、ムダな抵抗とわかりつつ、いくらか自粛制限を解き始めて、シニア仲間との交わり、遠出の散歩などで刺激を受けるように努力しているところです。

(大北義昭) 吉野は桜シーズンに入りました。直売所経営の私は、日々お客様と楽しく会話をしております。

(大久保匡信) コロナによる規制が緩和されつつあり、人と会う機会が多くなりました。嬉しいです。これからもっともっと人に会う機会を多くし、生活のリズムを取り戻したいと思っています。

(大竹光夫) 毎年開催している学研福島支社OB会がメンバーの高齢化で一旦休会してしまいましたが、今年3月、5年ぶりに飯坂温泉にて開催されました。元社員への参加は残念ながら私一人でしたが、当時の代理店さんや女性嘱託社員20名近くが参加し、当時の思い出話に花が咲きました。

(大谷義男) 野菜作りに忙しく、毎日を楽しんで過ごしています。腰痛がひどく、長距離を歩くことができなくなりました。

(大西三喜男) 2年前に結婚していた三女の結婚式は、コロナ禍で2度の延期を余儀なくされていましたが、やっと6月4日に開くことが決まりました。さめざめとなるか号泣となるか？

さて、2024年から実施される働き方改革で、日本の国力は間違いなく低下することでしょう。私の学研でのスタートは、昭和54年埼玉支社でした。滝島支社長の下、平均帰宅時間は23時を回っていたと記憶しています。(今では完全なブラック

です。)これからは国の指導で、膨大な仕事量と時間を使って仕事の質を上げていくことは出来なくなってくるのですから。

(大橋圭介) 3月1日に満90才となりました。電車に乗って一人で出かけるのは難しくなってきました。今、僕の家から鎌倉の桜が美しく咲いている山が一望でき、一年で最も良い日々を迎えています。

(岡本猛夫) 日々元気に過ごしております。一句

まだ遠き白寿の山にたどりおりただき、感謝いたします。健康で元気に過ごしています。高齢化による自治会活動が停滞する中で、高齢の自分がボランティアで自治会活動を支える一員となっている日常です。なんとも

言えない世の中になりました!!

(忍足恵一) 自宅前の小学校が廃校となり、高齢者のサービス施設「いきいきプラザ」になりました。そこで、体操をしたり、コーラスをやったりして楽しんでいます。6月からは麻雀教室も開かれることになり、ボランティアでお手伝いすることになりました。

(甲斐田陸記) 昨年11月、母校マンドリン倶楽部の創部百周年記念演奏会が、横浜の県民大ホールで開催。卒業して57年。懐かしくなり、友人を誘って出かけました。熱気あふれる大観衆の中で学生時代の記憶が瞬時に

よみがえり、久しぶりに大興奮しました。夢中になることは若返りの秘訣かな？

(影山皓一) その昔、転勤に伴い逆単身生活を経験しました。今それが多少役に立っている？ 専業主夫となり、食事をいつも作っていますが、料理は奥が深く難しいものはダメ。いつか、キッチンシンカーになってしまいました。

(加藤勇) 自分の不注意から右大腿骨を骨折し、退院後「リハビリ療養中」です。

(金子尚道) 社会保険労務士、行政書士として活動しています。

(金丸幹尚) 「学研春秋」楽しみにしています。3月で85才になりました。生かされた命、これからも杖を持ちながらも一人歩きできることを願っています。

(上鶴盛夫) ここ一年間、左足小指の骨折と、椎間板ヘルニアでの右足太股の激痛で不自由な日々が続き年相応に無理がきかなくなりました。

(川上親孝) お陰様で「大過なく」暮らしております。

(河崎伊知郎) 学研を定年退職して丸5年がたちました。未だに教育関連の営業の仕事をしています。あと2年ぐらいは頑張ろうと思います。

(河崎三千夫) ●一年ごとの先細りを感じる昨今です。●でも、気楽に余生を生きる幸せを思う

77回 大会風景 (敬称略)

乾杯

乾杯発声 (堤満弘)



新会場

食事



2 段重ねの弁当



初参加会員挨拶



(岩野一夫)



(鈴木正一)

新入会員挨拶



(秋谷俊之)



(谷口裕治)

黙祷



会計報告



受付



来賓挨拶



山本取締役



福住専務取締役



司会



第二部司会
(忍足恵一)



第一部司会
(安部隆)

毎日でもあります。●日々晩酌のビール一本(350ml)に満足。●医者とは適度に仲良くし、相手の言うことも適度に聞き流します。

【川西義規】 隣の工事の騒音に悩んでいましたが、ようやく終了しました。何が建つやら。

【川村正孝】 毎日五千歩の歩行がノルマ。しかし内臓はガタガタ。多臓器不全の兆候は明らかです。

【黒崎輝雄】 古岡奨学会にお世話になり、10年が経ちました。今年44期生363名を受け入れ、設立以来の受け入れ奨学生総数は10068名と、一万名を突破しました。

【黒羽正二】 30年来通院のクリニックから、4月末での廃院を告げられた。院長が交通事故の後遺症悪化で継続困難が理由。持病(痛風・高血圧症など)持ちの身には一大事。引退される医師から紹介状を受けることになっているが、未だに後継院は決まっていない。4月12日最後の診療時、永年の御礼と、患者から医師に「お大事に…」を。

【小暮光成】 コロナ禍の3年間どこへ行くのも車。しかし何事も潮時があります。今年87才。これを機に6月に免許証の返納を考えました。これからは考え方を、足腰の強化に専念します。余生を楽しく元気で過ごして参ります。

【小杉皓男】 フィンランドの子育て・教育状況を継続して現地

取材してきたことが今回のコロナ禍で、3年間停止。この間、4月初旬にはフィンランドは、NATOに加盟などがあり、どんな状況の変化があるのかを見聞きたいのですが…。

【小瀬昌明】 65才になりました。6月からは業務委託の営業の仕事を考えています。

【小西貞人】 月・水・金曜日は、晴天なら午前中グランドゴルフをやっています。火・木曜日は若会所とカラオケです。土・日曜日は適当に過ごしています。(関係している団体の行事があれば参加しています。)

【斎藤啓】 雨天を除き、毎朝公園でラジオ体操を、昼は自治会館でボケ防止のシニア麻雀を週2回のペースで、日々過ごしております。

【坂本登】 GWは、久々に大学時代の友人の茨城の実家(大田舎)に行きました。垣根のトリマー、種々の木の枝打ち、竹の子とり…。小川のせせらぎ、カエルの合唱などリフレッシュしましたが、体のあちこちが筋肉痛です。

【佐々木英夫】 昨年5月18日に軽い脳梗塞を発症し、現在は歩行訓練中です。次回大会参加を目標に、治療に専心します。

【佐藤浩一】 最近には特に季節の動きの早さを感じていますが、昨年に引き続き体調は順調です。ので、夏に向け夫婦で旅行を予定しています。

【佐藤八郎】 今年になってから

抽選会大当たり!!



歓談



素敵な賞品



社歌熱唱



ビンゴ

閉会挨拶
(関口一郎)

仕事で保存していた書類、本、雑誌、そして（DVDではなく）ビデオなどの断捨離を始めています。贈呈したり、かなり処分したつもりでしたが、棚の景色があまり変わらず、まだまだ先が長そうです。

（塩園彦） 拡張型心筋症で無理ができなくなりました。古文書の受講生は13年目に突入です。

（設楽皓一） シルバー人材センターの派遣で、大手衣料店で週3回の清掃業務。週3回フィットネスクラブにて運動。3か月に1回定期検診を行っています。

（清水敏） 14才になる老犬ベルと毎日散歩しています。まさに老々散歩です。人間さまがお犬さまに引っぱられっぱなしです。

（白石明） 月3回のグランドゴルフと月2回の町内パトロールを行っています。他に畑の仕事をしています。

（白石一清） だいぶ足が弱り、歩くのが遅くなりました。それでもまだ杖なしで歩いています。一日三千〜五千歩が目標です。春秋会には、歩けなくなるまで参加したいと考えています。

（杉妻甲一） 学研を退職後、さまざまな仕事をして参りましたが、現在は裁判所に勤めております。もうすぐ73才。せめてあと3年は働きたいなあ。

ゆく春や仲池上のガード下
（2ビルが一番長かったもので）
（杉山茂生） 毎週火曜日は最高齢の河崎三千夫さんの主催する体操教室へ。土曜日はゴルフな

らぬグランドゴルフを楽しみ、90才を超えてもなんとか人並みの人間として生きております。

（鈴木正一） 福島から戻り早2年。この一年は、パートに出る妻を見送りのんびり・・・できるかと思いきや、最近始めた料理を含む専業主夫？を結構忙しく勤めています。染みついた抜けることなきサラリーマン魂が根性か。

（鈴木禹志） 都心に出かけるときは、地下鉄やバスをうまく使い、階段を避けたり、乗りかえやすい経路を選んでいきます。外に出て変化を確かめるのが、元気のもとです。

（鱸洋之） 今年も100ラウンドペースで、ゴルフを満喫中。犬の散歩とスポーツジム・サウナや旅行など退屈することなく元気に過ごしています。

（関口一郎） 一日の過ぎることの早いこと！ あれ、これと思えばかりが募って・・・

（田嶋博彦） 管理人のアルバイトを月に10日程と、月一回のゴルフを楽しんでいます。

（高橋脩） 今は杖を必要としていますが、再起を願って、頑張つてリハビリを続けております。

（高橋秀鋭） 眼病で視力が低下しており、加えて歩行困難につき、今回も大会に参加できず残念です。

（田中勲） 先般、都内に残る「構内踏切」がある駅を訪ねました。一番知られているのは、寅さんで有名な「柴又駅」（京成金町線）

です。

〔田中茂樹〕 昨年11月に、コロナ禍突入以来初めて、日帰り旅行で山梨県に行ってきました。久々でとても良かったです。

〔田中剛之〕 地域のハーマニカ同好会で、青年の心を忘れず、毎月一回、交流をしています!! 行動し対話することで笑顔のキヤッチボールができることは、大事ですね!!

〔谷口義博〕 古岡オーナーの旧自宅からスタートした高齢者施設は504棟となり、全国一のものであります。いずれば、家族の負担軽減のために入居を考える施設になるのかな?

学 研 春 秋

〔反頭義光〕 今年は体調も良く、健康に注意しながら過ごしています。新型コロナウイルス感染者は少なくなりましたが、外出時はマスク着用で注意しています。

〔塚本正人〕 千葉県都市協会から「臼井ふるさとづくり協議会」が、魅力あるまちづくりに著しい功績のあった団体として表彰を受け、授賞式に出席してきました。今後もさらなる活動を推進していきます。

〔筒井昭正〕 コロナ規制の間休んでいたグラウンドゴルフやスカイクロスを再開しました。週一で琵琶湖沿いの道の駅まで野菜を買いに行ったり、ブックオフを覗いたりしております。春秋会報誌を見て皆様の近況を知り、一喜一憂しています。来年こそは大会に出席したいと

願っています。

〔堤満弘〕 生涯現役を目指して脱サラ起業した人材ビジネスも今年4月で、21周年となりました。過ぎた年月は実に早いもので、感覚的には10年ぐらいに感じます。昨秋「後期高齢者」になったのを機に、「国家資格キヤリアコンサルタント」にチャレンジ、合格しました。学科・論述・実技の3科目あり、覚えること山盛りで、久々に受験勉強に励みました。今年は所属する男声合唱団の定期演奏会が2年ぶりに9月中旬に県文大ホールで開催予定で、現在特訓中です。これからも、暦年齢に支配されることなく、いろいろなことにチャレンジして、楽しく元気に過ごしたいと思っています。

〔道休俊和〕 二十数年間の囲碁普及活動を後進に譲り、今は同好の方々と楽しみながらの打碁です。週2回のジムと園芸、そして再度藤沢周平、池波正太郎を読んでいます。

〔中居栄太郎〕 ゴルフが長く出来るよう、健康に留意して生活したいと思っています。

〔中沢陸彌〕 相変わらずです。よく働き、よく遊んでいます。

〔中島正博〕 白内障の手術をしました。効果でき面で、世の中が明るく一変しました。よい点は、それまで気にならなかった自分のシミ・そばかすなどがやたら目につくようになったこと。

〔永松久幸〕 毎朝4時に起床し、

神棚の榊の水替えを、しています。その榊の一枝が、一年半以上も6枚の葉と2枚の新芽をつけて元気に生き続けており、感動しております。小生も、自然の生命力にならない、元気に全うしたいと思っています。

〔仲田雄二〕 退職以来元気で過ごして参りましたが、ここ一年内外であちこちに身体の不調が出てきて、忙しく、それぞれの病院に通っています。

〔中村裕之〕 生け垣のトキワマンサクが満開になり、雑草取りと土壌整備を始めています。まずは、小さな花壇から。

〔野村耕司〕 元気で生きています。

〔野村実〕 元気で。

〔橋詰庸郎〕 テレビを見ながらブツブツ独り言。・身体のあつちこつちにキシミが出ています。賢治さんの「雨にも負けず風にも...いつも静かに笑っている」そんな気持ちになりたいと思う毎日です。

〔原邦男〕 月一のゴルフなどで体を動かし、元気にしています。

〔原正〕 5月の初旬に、「心臓機能検査」を某大病院で受診。結果、「肥大と心不全」が発見され、治療に入りましたが薬が強すぎて、増悪。弟の主治医と相談。薬を中止。「めまい」で立つこともままならず、疲労困憊。老人にはかかりつけ医以外の薬剤は危険と知りました。その後、めまいは薬で回復。今は日常生活に戻りました。そして、

福島、千葉に撮影旅行を楽しんでいます。秋の大会は是非出席。写真は猪苗代町の「蓬澤の滝」



〔原田耕二〕 終活で、収集していた切手や小銭の処分や写真の整理を始めましたが、かなり長生きしないと終わりそうもありません。

〔東寛治〕 元気に暮らしています。

〔東武〕 3年前「胸部、腹部大動脈瘤」が見つかり、2度の手術で経過観察中の状態で、歩くことが儘なりません。

〔平岡雅雄〕 高齢になると自宅内での転倒が多いといわれており、気をつけています。私の知り合いで、しりもちで骨折、長い入院、リハビリ、そのあげくコロナに院内感染、すっかり体力を落とし何とか退院したもののまもなく逝去。もう一人は、玄関に滑り落ち、大腿骨折。じつは最近私も階段の一番下の段で滑り落ちて転倒、「しまった、やってしまった。」とあわてましたが、何とか無事でした。今、できるだけ散歩をして体力を保つよう心掛けています。

〔平田伸一郎〕 老齢の悲しさ、淋しさを酒でごまかしながら生きています。恥ずかしい一生です。

〔平野光徳〕 妻の闘病生活が続いています。

〔日向邦夫〕 キャラバンメイクトを受講し、ボランティア講師として、老人会で「認知症サポーター養成講座」を年6回行いました。また、地元の中学校とイートリーカ堂から依頼がありケアプラザと協力しながら講師を務め、忙しい毎日です。

〔福沢弘行〕 病院通いの日程を調整しながら、体力維持のために、家庭菜園を今年も実施するよう進行中です。

〔藤井健〕 緑内障のため視力障害2級です。大会への出席は、最後の機会だと思い、決断しました。

〔藤原郁久〕 もう古希か! まだまだ古希か? 頭影ありがとうございます。

〔細井伸一郎〕 当方、半老々介護状態です(笑)。

〔堀真彦〕 芭蕉関係の本を全部国会図書館に納本しました。

毎日と同じように過ぎていく。これも白寿への一里塚なり。「白寿」は、待てば海路の日和あり、楽しいな。

〔松下勲光〕 毎日畑に出動しています。畑の開墾・種まき・苗植えと大忙しです。現在の主な野菜は、里芋270本、ジャガイモ200個、枝豆200本、トマト24本、ナス12本、キュウリ10本などを植えました。昨年11月に植えた玉葱1200本は、5月末に収穫です。

〔松林光義〕 さすがに、八十才

の健康状況です！
(馬淵宏) 古い機械のように、あちこちの部品？がすり減ってききました。年寄りっていやですね…。

(水野隆二) 近くの多摩川堤、図書館にと散歩しています。持病の脊柱管の手術せずの状態です。時々自転車使用です。

(宮坂清茂) 3月に突然夫婦の主治医4人が転院され、新主治医は新検査データを求め、放射線にて全身検査が続き、放射線一時中止、感染防止のため外出控え中です。

(宮原雄二) 健康状態は変わりなく過ごしています。愛犬との散歩が、毎日の日課となっています。

(村岡勝美) 今のところ、特になし。

(村上裕也) 児童相談所に勤務して4年目を迎えました。来年度の年度末には面接があります。70歳以降も継続して働ければと思っています。

(茂木晃二) 時勢柄、久々に声がかかって、市のホール、スタジオウェイで演奏に臨みました。結果は「腕が落ちたな」との述懐に終わりました。

(守田志郎) それなりに楽しく、平々凡々な毎日を送っています。

(森谷利道) 町内会の仕事とか、新聞などのニュースで、世間の動きを知ること集中しているこの頃です。

(安成誠) 感染症もやっと落ち着き、元の生活に戻りつつあり

ますが、寄る年波は着実に実感しています。特に視力などの眼の衰えには困ったものです。健康維持向上に努めたいと思うこの頃です。

(吉田純三) コロナ騒動も治まりつつありますが、老化した体は簡単には元に戻りません。幸いコロナ感染はしませんが、花粉症、腰痛と故障箇所が多く、好きなゴルフも全く無沙汰です。暖かくなり、畑の作物作りを楽しんでいます。山々に囲まれた葦崎で、四季の変化を味わいながら、旨い酒を楽しむことで、欲をかずに生きています。

(和田保男) 大会出席を楽しみにしていましたが、姉が急死し、四十九日法要と日程が重なり、出席できなくなりました。

(渡邊洋二) 学研の各種教育情報お届けのため、毎月、愛知・岐阜・三重・静岡の4県の県庁や市役所を訪問中。いずれも、年配職員の横柄さに辟易する日々です。

(綿引英子) 大好きな趣味は続けています。外に出ると友達もいて、元気をもらって頑張っています。主人が他界して一年になります。今は孫が来てくれていて、楽しんでいます。



春秋ラウンジ

会員皆さんの投稿頁です。
 エッセイ・記録・紀行・
 趣味・自慢・秘話など歓迎。
 1編400字詰め2枚以内。
 投稿多数の場合は、掲載できないこともあります。

販売局の想い出②

平林 宏茂

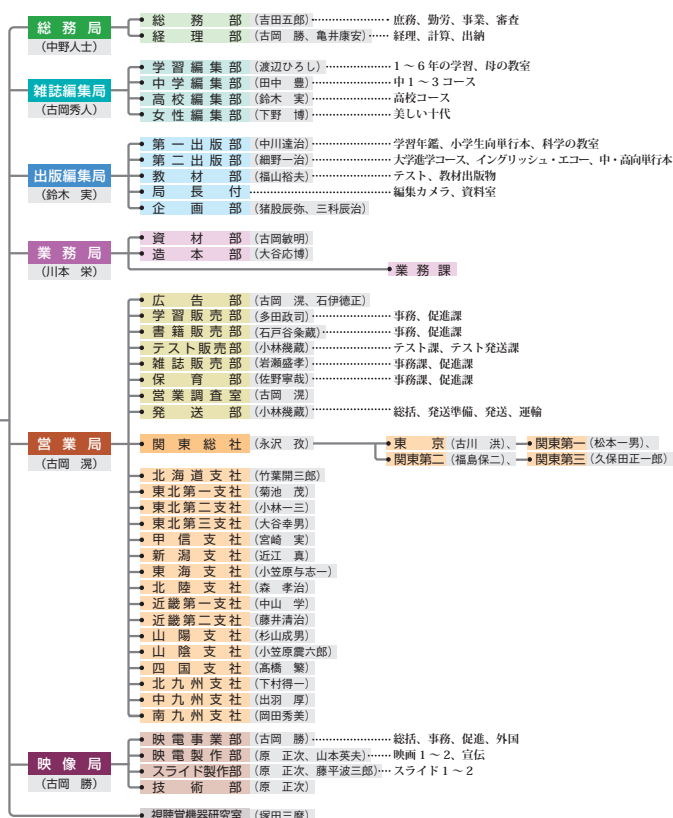
その後南九州4県、近畿2府4県担当、昭和32年に会社の販売部としては初めて近畿支局に転勤となりました。支局長細野さん、学習担当福島さん、保育担当久保田さん、市販営業平林でした。昭和34年販売部に戻り静岡、長野、山梨を担当、昭和36年直販の東京支局長になり、東京、神奈川、静岡の直配部訪問も終わりきらない4ヶ月後支局再編成で私は静岡に赴任しました。

支社業務12年、本社に戻り、スポーツレジャーに7年、この間販売局は百科事典、学参書、児童書と大きく伸びていました。私が販売局に戻った昭和55年は吉田局長、柏浦雑誌課長、松沢書籍課長でした。その後、岩瀬局長、伝局長、古岡局長と上司が変わりました。柏浦課長が体調を崩し雑誌を担当、中学一年コースと旺文社の中一時代との熾烈な販売合戦でした。年間予

約者プレゼントが万年筆からポットラジオに、さらにテレホンカードに。ダイレクトメールを何回もかけその経費は莫大で旺文社との消耗戦でした。
 従来新企画雑誌は企画会議にかけていましたが、編集役員が新企画を不安視しダメを出すのが多く潰れていました。ところがオーナーより企画会議にかけなくて良いので新企画をとの指示で会議にかけず次々と編集部が新企画を立ち上げ、60誌ほど創刊しました。売り上げも広告収入も大幅に伸びました。

しかし現在はパソコン、スマホと時代が変わり、今は出版界は厳しい時代となりました。出版社から教育の総合メーカーへそして医療福祉事業へと事業の幅が広がっています。10年後の学研がどうなっているのか長生きしてみたいものです。
 私はこの10月で91歳。夜中目がさめると仲間のことや次々と浮かび、その多くの方が亡くなられました。ご冥福を祈念いたします。
 昭和35年の組織図を添付しますのでご覧ください。

■会社組織図 (昭和35年8月)



社 長 専 務
 (古岡秀人) (中野人士)

書作展の回顧とその後

高橋 秀鋭 (号 洋風)

私は定年退職後入院・手術などがありました。が何とか八十七歳となり、来年には米寿を迎えることができそうです。

さて、平成十八年十月に横浜・みなとみらいで開催した「高橋洋風書作展」は、忘れられない出来事でした。この書作展は、六日間にわたり過去五十年間の書作活動の総まとめとして、また亡き妻との約束もあつての、最初で最後の個展開催でした。



定年後十年を経過していたにもかかわらず、数百人もの方々にお越しいただき、対応にも困惑するほどの、予想を上回る盛況となりました。これはとりもなおさず、皆様のご厚情の賜物であり、心から御礼申し上げます。

さて、個展では、書の本質に触れられる手がかりになればという思いから、漢字・かな・近代詩文・墨象など諸々の書体を七十三点展示、それぞれの作品に、製作の意図や筆後の所感などを付したところ好評でした。

また、一般の方が二日間にわたりご来場いただいたり、私のコメントを一点ごとに読んでくだ

さるなど、驚きと感動の個展となりました。

私は、人生の最終段階を迎えましたので、我が人生に悔いなし」といえる余生を送るべく、「日々是好日」を実践するため趣味のカラオケや囲碁を楽しんでおります。

まずは各位のご清健を祈念し、擲筆します。

(「学研春秋」のタイトルは高橋さんによるものです。)

寄付を募り、市民が実施した
歴史文化財の保存

関口 一郎

先に本誌第66号・67号で我孫子宿追分の水戸道・成田道道標の保存についてのお話をし、寄付金の目処もなんとか付いた平成3年12月に地鎮祭に漕ぎつけた、とまで書きました。

その後、地鎮祭は終わったものの、車の出入りの多い交差点際なので、年内の工事は中止。

平成4年は、新年早々に起重機を使つての小学校校庭に道標を運ぶ作業から始まりました。道路元標を除く7基の道標を移動するので、本体・台座・敷石・灯籠などかなりの数になります。

校庭に据げた石造物は、割れ目の修理や本体と他の組み合わせの同定、更に大事なものは刻まれた文字の読み取り・確認です。運んだ後地は整地をし、防草シートと砂利を敷き、一部にタマリユなども植栽しました。

整備後、道標を元に運び、新たに年代順に配置しました。こうした一連の過程で、倒れていた道標の中に元禄4年(1691)の庚申道標が発見され、表に「従是左水戸海道」「これより右布川海道」とあり、まさに掘り出し物でした。利根川の川筋整備で、布川経由から取手宿への経路変更の時期が特定できる貴重な史料。「海道」は中世以前から使われている標示名です。

さらに、地中に埋もれていた部分には15名の寄進者の名前も見えました。今後の文化財指定につながる重要な史料です。

また、7基の道標設置年と疫病流行との関係も窺われました。9月13日に市作成の説明板の設置、9月27日には市長・教育長列席の報告会を行い、これをもつて令和元年12月から3年越しの事業の一応の終了としました。

(当日は国葬の日と重なり、報道陣が見えないのが残念。)

以上が、市行政と連絡をとりながらも、市民チーム(自治会・商店会)が中心となって文化財保存事業を遂行した二事例です。

なお、新しい試みとして、説明板の最後にQRコードを付け、更に



詳しい説明や更新された内容を知ることができます。

駅ナカで発見⑩

田中 勲

穂高駅(大糸線)

「駅舎は神社スタイル」

大糸線は信州松本から日本海に面する糸魚川まで、約一〇五kmを走る。全線に乘車すると三つの楽しみが味わえる。

一つ目は三〇〇m級の山並みが続く北アルプスの眺め。二つ目は大糸の先で「アルプスの鏡」と言われ、鹿島槍ヶ岳などの水面を映す仁科三湖の眺め。三つ目は長野と新潟の県境を越え、姫川上流の急峻な地形を進み、怖い程のスリル。

始発の松本から約三〇分。安



曇野観光のメイ
ン駅である穂高
駅に到着する。
この駅では注連
縄をつけた珍しい駅舎を見るこ
とができる。駅近くに穂高神社
が鎮座する。駅舎は、まさに神
社の本殿の雰囲気がある。

大糸線は松本から大糸まではJR東日本管轄。大糸から糸魚川まではJR西日本管轄となる。この区間は赤字が続くらしい。だいたい前、西日本のエライさんが、将来大糸線の廃止を考えていると発言しました。大糸線には早急に乗車しておいたほうがいいようです。

春・秋・会・告・知・板

★秋季大会は十月二十九日(日)第七十八回秋季大会は右記月日に、会場は学研本社ビルになります。

★年会費納入のお願い

会費未納入の方は、ぜひお早めに納付をお願いいたします。

お問い合わせは谷口義博幹事(会計担当)まで。

電話〇四五―五〇一一一九六〇

★会員ご逝去のご連絡のお願い

会員が亡くなられた場合、弔電、ご香料の手配をしています。

会員のご不幸を知られた方は速

やかに鈴木会長まで、左記についてご連絡ください。

・ご本人名・喪主名・葬儀日時

・斎場名・斎場住所・電話番号

へ連絡先V電話・FAX

〇四五―七七四―一三三〇

★会員勧誘のお願い

このところ、入会される方が少なく、会員数が減少気味です。学研を退職された方をご存知でしたら、鈴木会長までお知らせください。

★皆様のエッセイ、紀行などの投稿もお待ちしております。

発行〓学研春秋会事務局 〒351-0206 横雲町区米取沢一五〇(四十一三〇)四

電話・FAX 〇四五―七七四―一三三〇

発行人〓鈴木 昭三 編集人〓森 一郎

幹事〓安部 隆／本多由利子／忍足 恵一／村上 裕也／

谷口 義博／菅原徳太郎

印刷〓株学研スタイル